空とぶスミッコ

作 西澤尚紘

〈登場人物〉

① 明久（あきひさ）

② ミツオ

③ カズ

④ ケイ官（かん）

⑤ ユリ子（こ）

⑥ タケオ

⑦ ゲン

一場ー①

明久「オッス、みっちゃんひさしぶり。」

ミツオ「ウッス、明久。元気にしてたかい？」

明久「元気モリモリだよ。」

ミツオ「モリモリならけっこう。」

明久「ビールでいい？」

ミツオ「おおビールで。」

明久「ハーイ、生中一つ入りまーす。」

ミツオ「ああ、やっぱ長野はおさつくなし。」

明久「どうで、そっちのくらしは？」

ミツオ「東京生活で、まあまあのリア充生活だよ。」

明久「仕事の方は？」

ミツオ「ぼちぼち。ああ、来月、ベトナムに仕事で行くよ。あっちに工場つくるんだって。」

明久「マジで、超ワールドワイドじゃん。」

ミツオ「フォー食べてくるよ、フォー。」

明久「フォ、フォーー！」

ミツオ「ハハハハハ（笑）。」

一場－②

明久「彼女とはどう？、うまくいってる？、」
ミツオ「おお、そのことで報告があります。」
明久「え？、ナンですか？、」
ミツオ「オレ、来年結婚します。」
明久「だは～!?」
ミツオ「なんだよ、だは～って（笑）。」
明久「え、みっちゃんマジで？、」
ミツオ「うん。」
明久「マジか～！、結婚すんのがよ？、」
ミツオ「しちゃうよ～。しちゃう、しちゃう。」
明久「おめでとう！、」
ミツオ「あんがとう。」
明久「イヤ～メデタイね。式はいつするの？、」
ミツオ「六月かな。彼女の希望だよ。」
明久「ジュ～ンブライドがよ～。やっぱ軽井沢？、」
ミツオ「できれば軽井沢。」

一場 ー③

明久「やっぱね〜。やっぱ軽井沢だよね〜。」

ミツオ「オレ、もっとガンバルは。」

明久「えて、何がて。」

ミツオ「仕事とか、いろいろ。」

明久「えて、みっちゃんが？もうナンかガンバってんじゃん。」

ミツオ「オレなんてまだまだだよ。これから結婚していろいろ金もかかるし、子供もできると思うから。」

明久「そういうもん？」

ミツオ「そういうもんさ。たぶん。」

明久「そういうもんか〜。でもまあ、めでたい、めでたいよ！おめでとうみっちゃん。」

ミツオ「オッス、あんがとう。」

明久「よし、今日は飲んじゃおう！じゃん、じゃん飲んじゃおう。」

ミツオ「オウ、カンパイだ。」

明久「カンパーイ。」

ミツオ「カンパーイ。」

二場-①

明久「エイヤ！」

カズ「ふん。」

明久「ヨイショー！」

カズ「ふん。」

明久「もいっちょ！」

カズ「ふん。」

明久「たあ！」

カズ「手えイタ！」

明久「ふうへ汗、よし、これで二千個目。」

カズ「先輩〜手えイタイッす〜。」

明久「おうカズ、サンキューなこれで二千個つぶしたは。」

カズ「これでいくらになるんでしたっけ？」

明久「一八〇〇円。」

カズ「えー少なくないっすかー。」

明久「えー・三日くらせるよー。」

カズ「こんなん一回、ロイヤルホスト行ったら終わっちゃいますよ。」

二場ー②

明久「パンの耳買うもん。」

カズ「イヤイヤそういうことじゃなくて。
もぅわかんないかなぁ。」

明久「どういうこと？」

カズ「先輩そろそろ人並みになりましょうよ！」

明久「ひ、人並み？、人並みってナニ？」

カズ「もうこんな宿無し生活やめてちゃんとした部屋にすむとか。」

明久「アパートとか？、タワーマンションとか？」

カズ「そう。」

明久「オレもアパートがいい！オレ、アパートすむは！」

カズ「じゃあ、働かなくちゃ。」

明久「ハア？、働いてんじゃん。缶集めやってるし。」

カズ「イヤイヤイヤ、これじゃ働いてるうちにはいらないっすよ。」

明久「じゃあどうすんの？」

カズ「会社とか、すきやとか？」

明久「イヤだ。過労死するから。」

二場-③

カズ「いい加減大人になってくださいよ〜。」

明久「絶対ヤだ。」

カズ「も〜。じゃあ先輩草でも売りますか？」

明久「草？」

カズ「食べモンじゃないですよ。」

明久「じゃあナニ？ナンなの？」

カズ「キモチよくなる草。」

明久「大麻？イヤだよ。つかまるじゃん。」

カズ「合法のやつですよ。合法なキモチよくなる草。」

明久「え？そんなのあるの？」

カズ「あります。」

明久「あるんだ。」

カズ「そう、そう。」

明久「イヤーでもそういうあやしげな物を人に売るなんてさー。」

カズ「じゃあ、会社もしくはすきやですよね。」

明久「え〜イヤだ〜。でも、え〜。」

三場ー①

明久「草はいかがですかー。キモチよくなる草はいかがですかー。合法でーす。二〇〇グラム五千円でーす。」

ケイ官「ちょっと君、いったい何売ってんの!?」

明久「草ですけど…。」

ケイ官「薬物じゃないの!?だったら署の方まで。」

明久「じゃあチェックお願いします。ハイ、コレ。」

ケイ官「大麻!?…ではないな。」

明久「合法の草なんで。合法の向精神薬的な草なんで。」

ケイ官「あやしすぎる!でも、クンクン、大麻ではない、クンクン。」

明久「はあ。」

ケイ官「またチェックしにくるから君。今日は帰るけど。」

明久「御苦労様でーす。」

ケイ官「あれ?なんかキモチいいんだけど、あれ?あ、なんか体がフワフワする…。」

明久「草はいかがですかー。キモチよくなる草はいかがですかー。合法でーす。二〇〇グラム。」

ユリ子「これ、本当にキモチよくなれるんですか?」

三場－②

明久「へ？」

ユリ子「この草、本当にキモチよくなるの？」

明久「ええ、すごいフワフワした感じになるし、幸せな感じになりますよ。」

ユリ子「自分でたしかめたことあるんですか？」

明久「ええ、まあ。キモチよかったですよ。」

ユリ子「そうなんだ……。」

明久「でも中毒性はないんで。たぶん。」

ユリ子「じゃ、じゃあ、四〇〇グラムください。」

明久「二万円になりまーす。」

ユリ子「ハイ、コレ。」

明久「ありがとうございますー。草でーす。」

ユリ子「どうもありがとう。」

明久「イヤーうれしいなー。」

ユリ子「えっ？」

明久「あなたがお客様第一号ですよー。バンザーイ。」

ユリ子「そ、そうなんだ。」

三場－③

明久「そうなんです。」

ユリ子「そう…。それじゃ。」

明久「はい、ありがとうございます！。」

OKOKSY

四場ー①

明久「キノコはいかがですか〜。キモチよくなるキノコはいかがですか〜。マレーシア産でーす。合法でーす。二〇〇グラム五千円でーす。」

ユリ子「あの。」

明久「ああ、この間の。」

ユリ子「こんどはキノコなの？」

明久「そうなんです。こんどは魅力的なキノコなんです。」

ユリ子「これもキモチよくなれるの？」

明久「なれますよ。」

ユリ子「本当に？」

明久「この前の草よりもずっと。オレためしたんで断言します。」

ユリ子「じゃ、じゃあ四〇〇グラムください。」

明久「二万円になりまーす。」

ユリ子「ハイ、コ、コレ。」

明久「あ！どうしたんですか!?その手首!?」

ユリ子「え？」

明久「血がにじんでるじゃないですか！」

四場ー②

ユリ子「ホントだ…。血が…。」
明久「ホラ、ココ座って。」
ユリ子「あ。」
明久「コレ、まくから。」
ユリ子「ありがとう。」
明久「よし、これでオッケ。」
ユリ子「私、毎日毎日つらくて、むなしくて。」
明久「てっか〜。それで手首、ひっかいちゃったんだ。」
ユリ子「こんなハズじゃなかったの。」
明久「うん、うん。」
ユリ子「うっ、うっ、うっ（泣）」
明久「まあ、コレでも飲んでよ。ココア。」
ユリ子「ありがと…。」
明久「よかったら事情教えてくれない？」
ユリ子「ダ、ダンナが猟奇的なの…。」
明久「リョウキ的なダンナ？」

四場ー③

ユリ子「そうなの。」

明久「どういうふうに？」

ユリ子「スゴク、スゴクやさしいのに、ふいにキレて私を…。」

明久「なぐるの？」

ユリ子「そう。何度も、何度も。」

明久「ヒャ～。」

ユリ子「でもね、その後、何度も何度もあやまるの。」

明久「そんで許しちゃうの？」

ユリ子「うん。」

明久「典型的な家庭内暴力じゃん、それ。」

ユリ子「でも、やっぱり心にキズが残っていくみたいで最近、私は…自ハを…。」

明久「よくないよ、そんな環境！」

ユリ子「でもね、でもね、彼、私がいないとダメなの。弱い人なの！」

明久「え～、そんな～。」

ユリ子「ちなみに彼、猟奇的にしっと深いの…。」

四場－④

明久「えっ？マジで？じゃ、こうやってアナタと話しているのを目撃されたら…。」

タケオ「このインランマンコが～！」

ユリ子「ああ！アナタ！イターイ！」

タケオ「オレが会社に行ってる間に～。よその男と会話しやがって～！」

明久「おい！なにやってんだオメー！」

タケオ「この！この！この！この！この！」

明久「ヤメロー！このDV野郎！」

タケオ「アウ!!」

明久「ハアハアハアハア（汗）。」

タケオ「ハアハアハアハアハアハア（汗）。」

ユリ子「うっ…うっ…っっ（泣）。」

タケオ「あ、オレは？あ？ユリ子？」

ユリ子「うっ…うっ…ここうっ（泣）。」

タケオ「ごめんユリ子！オレはまた大事なユリ子に、ユリ子に、あ～ごめんよ、ごめんよ、ごめんよ～！」

四場ー⑤

明久「なんでかな〜。なんでこうなっちゃうかな〜？」

タケオ「ごめんよユリ子・・・。ごめんよ〜。」

ユリ子「うっ・・・うっ・・・(泣)私はフツーに暮らしたいだけなのに・・・。」

明久「ダンナさんさ〜？」

タケオ「はい・・・。あ？このたびは・・・ホント。」

明久「あのさ〜？」

タケオ「え？」

明久「キモチよくなるキノコいる？」

タケオ「え？」

ユリ子「キモチよくなるキノコよ！アナタ！」

タケオ「でも、それ・・・いけない薬じゃ？」

ユリ子「合法よ！アナタ！」

明久「そう、そう。」

タケオ「そういう問題じゃ・・・。」

ユリ子「じゃあ、どういう問題なのよ!?」

タケオ「精神科に行こうユリ子、二人で・・・。」

四場ー⑥

明久「あ、たしかにね、たしかに。」

ユリ子「アナタ……。」

五場-①

明久「イエ〜イ、これでアパートにすめる〜！」

カズ「なくしちゃダメですよ、稼いだお金。明日、大家さんにわたすんすから。」

明久「わかってるって！イエ〜イお金いっぱ〜い！」

カズ「イヤ〜先輩にキモチよくなる植物シリーズ売る才能があったなんて知りませんでしたよ。」

明久「心がヤバイ人が多いってことっしょ。」

カズ「そっか〜。」

ゲン「でて行くのかアキちゃん…この公園を。」

明久「うん。行くよ。」

ゲン「さびしくなったらいつでも戻ってこいよ。」

明久「うん、そうする。」

ゲン「あのさ雨がいっぱいふってる時は行ってもいいかや？台風の時とか。」

明久「ウエルカムだよ。」

ゲン「あんがとう。まあ、飲もう。」

カズ「以外とウンメー、この激安酒！」

明久「だろ？以外と公園で飲むのも悪くないだろ。」

五場ー②

カズ「このおつまみもなかなか！」

ゲン「ハハハハハ（笑）。」

明久「ねえ、ゲンさん？」

ゲン「おう？」

明久「ゲンさんは、日々の生活で心がヤバクなる時あるの？」

ゲン「あるにきまってんだろ（笑）。」

明久「え？あるの？」

ゲン「あるよ～（笑）、さみしくなった時とかさ～。」

明久「じゃあ、心がそうなった時どうすんの？」

ゲン「こうやって酒飲んでさっさと寝るよ。」

明久「うん。」

ゲン「朝起きたらまた元気さー！」

明久「だよね～！」

カズ「かんぱーい。」

完